

本稿は、8月22・23日に行われた第43回自治労連定期大会での代議員発言について、加筆・修正したものです。

「コロナのせいで」とあきらめない！ 学校給食調理場集約化反対、平和の取り組み

自治労連岡山県本部

議案を補強する立場で、岡山市職労の「岡山給食センターの移転建替え問題に対する取り組み」と「平和の取り組み」について発言して討論に参加します。

子どもを真ん中においた学校給食のあり方

岡山市は、現在の5中学校・約2,500食分を調理している岡山学校給食センターを、「老朽化」「効率化」「少子化」「人員不足」を理由に、現在の3倍7,500食の調理が可能な巨大調理場に、PFI方式の活用の可能性を含めて建て替え、2025年1月の稼働開始を目指しています。

現在24校の自校調理場を廃止して、36校全ての中学校を、このセンターに集約化するものです。小学校は、自校調理方式を原則維持するとしていますが、「規模によって検討」ともしています。

こうした下で、岡山市職労学校支部や「岡山市の学校給食をみんなで良くする会」を中心に、「学校給食調理場は“集約化”ではなく、“全小中学校の単独自校調理方式化”への方針を！」「全ての児童生徒に寄り添った食育実施のため、正規学校栄養職員を全校へ配置を！」の2項目の実現を求め、昨年11月から

今年1月末まで市民署名に取り組みました。コロナ禍での年末年始ではありましたが、署名は5,848筆にのぼり、今年2月21日に教育長に提出しました。

しかし教育長は、「市として給食にコストがかかりすぎる。効率化は無視できない」「『岡山市学校給食運営検討委員会』で給食センター移転建設にお墨付きをもらった」などと発言しています。

岡山県下の自治体では相次いで、こうした調理場の集約化が進められており、岡山県本部では、今年6月、コロナの影響で中止にはなりましたが、「給食センター問題・公共施設等再編統合問題を考える全県交流集会」を企画する中で、改めて県下の全自治体に学校給食の実体アンケートを実施し、17自治体から回答を得ました。

結果として、文科省の全国調査結果と照らし合わせると、岡山県下では全国に比べ、直営比率は若干高いものの、センター調理の比率が高くなっています。直営比率が高いことから、各自治体職員の努力によってか、地産地消・食育の格差は見受けられませんでした。

教育としての学校給食を、「公」が責任をもって遂行していくために、地域住民や市民と

情報と思いを共有しながら、引き続き子どもを真ん中にすえた学校給食の実現を目指していきます。

「ピースバルーン」から「ピースフラワー」親子で平和を考える機会も

岡山市職労は、岡山市平和の日に制定されている、岡山空襲があった6月29日を起点として、8月末までの間、多くの職員や市民と「平和」について考えることのできるさまざまな取り組みを毎年行っています。

31年続けてきた、100人ほどの保育園児と市職員で平和への願いを書いた短冊付の風船を飛ばす「ピースバルーン」もその一つですが、昨年からは、環境への配慮や、近年の猛暑とこのコロナで、「ピースフラワー」という新しい取り組みに変えて開催しました。

これは、平和へのメッセージを書いてくれた方に花の苗をプレゼントするものです。花の苗は、コロナ禍で販売が厳しい状況にあった福祉事業所のみなさんが育ててくれたものを社会福祉協議会を通じて購入したものです。

市長や市議会議長からもメッセージをいただき、315のメッセージは組合掲示板に貼り、SNSでも発信し、世界中の人々と平和への願いを共有する工夫をしました。

また、戦争を風化させず、二度と同じ過ちを繰り返さないために、親子で平和について考える機会にも取り組みました。コロナ禍で人を集めることが難しいため、ショッピングモールから岡山駅までの地下道にあるスペースでイベントを行い、より多くの市民に平和の大切さを訴え、思いを共有することができました。岡山ユニセフ協会から借りた世界のパネルを展示し、図書館司書の協力で戦争や平和の絵本の展示も行いました。

親子向けには、市職労保育園・こども園支部の職員が、楽器の演奏会と絵本の読み聞かせ、着ぐるみで劇を行い、子どもも大人も楽しみながら最後は真剣に平和について考える機会となりました。

さまざまな立場の人が、ちょっと立ち止まって「平和」について考えることができるよう、多様な形で取り組んだことで、小さな一歩かもしれませんが、参加者一人ひとりが何かのメッセージを発信し、共感を広げることができました。

新型コロナ感染症の終息が見通せない中で、お弁当の注文をとりまとめる飲食店支援や、一人親や学生の生活支援をするコミュニティフリッジなど、コロナの中での新たな助け合いの取り組みを広げつつ、待ったなしの取り組み、絶やしてはいけない取り組みも多くあります。

ともすれば、縮小や中止を余儀なくされ、あきらめてしまいがちになりましたが、岡山県本部・単組の仲間と知恵を出し合い、今までにない取り組みへと、少し幅を広げることができたのではないかと思います。

「コロナのせいで…」と、あきらめることなく、このコロナ禍も追い風に変えることができるように、引き続き自治労連に結集して取り組みをすすめることを申し上げて、岡山県本部の発言に変えさせていただきます。